## アルバイトアラカルト

学生時代とアルバイトは切っても切れない関係にあった。授業料の支払いのためならまだしも、食べてゆくためだけのアルバイトも数多くした。いや、せざるを得なかった。

とにかく何でも経験とばかりに手当たり次第にやってみたが、中にはひどいのもあった。

「昼食つき、半日で千二百円、酒飲み放題、先着八十名」の館内放送が流れるや、日曜日の朝の学生寮はパニックになった。私も必死だった。何せ私の部屋は食堂のある管理棟とは別棟でしかも二階の一番はずれだったものだから、パジャマのまま階段など三段ずつ駆け下りていった。あちこちの部屋から突進して来る寮生は西部劇のバッファロウの突進にも似ていて、ドドドーッと凄まじいものがあった。

幸いにして定員が多かったせいか殆んどの寮生が採用され、すぐさま出迎えのバスに乗せられた。不思議な事に誰も一体何のアルバイトをするのか知らないまま出かけたのだが、嫌な予感がし始めたのは、集合場所の商工会議所の大会議室に着いてからだった。

果たして、大きな部屋の片隅で、旅の一座よろしく役者風の男女数人がコオリを解

いていた。
彼らがたった今、集合した我々を、片っ端から顔を真っ白に塗りたくるのを見て、初めて寮生全員で、これよりチンドン屋の片棒を担ぐ事を理解したのだった。
その日は高崎商店街名物えびす講とかで官軍パレードが大売出しを触れて回る仕掛けになっていたのである。どうりで学生服持参の事と但し書きがあったと思った。寮生全員赤毛か白毛を被り、顔はというとオシロイで真っ白に塗られ官軍兵士に変身させられてしまった。この光景を見ただけで五名ほど脱走したと後で聞いたが根性の無い奴だとおもった。
二時間も支度にかかっただろうか、赤毛と白毛が二列に並び商工会議所前の大通りに整列した時はさすがに自分自身に嫌気がさした。私は赤毛のグループで背が低いから最前列である。私の前はさっき化粧をしてくれたチンドン屋の姐さんと月形半平太がいた。例のクラリネットとカネ・タイコがセットになった楽器が独特のリズムを作り上げ、士気の高揚を図ってはいたが、後続の寮生官軍はションボリしていた。
とにかく行進は始まった。「皆様、お待ちかね、高崎えびす講名物官軍パレードが今年もやって参りました。」と先頭の月形半平太がハンドマイクでがなりたてるや、クラリネットが何やら聞き覚えのある演歌をクネクネ歩きながら演奏し、チンチンドンドン、チンドンドンの姐さんが後を追う。そして八十名の寮生官軍がゾロゾロゾロ。

オマケとばかりに最後部ではテープレコーダが「ミヤサンミヤサンお馬のまーえでえ」である。生涯の思い出になったと言えばそれまでであるが、とてもじゃないが胸を張って歩けたものではなかった。

昼過ぎにパレードは終わったが街中に恥をかいて廻った代償が千二百円だった。飯つき、酒のみ放題というのはウソで、アンパンと牛乳一本貰って「ご苦労さん」だった。チンドン屋の例の半平太に「兄さん、来年も来るだんべ」と声をかけられたが、官軍パレードはその年限りでなくなったと聞いている。